

丁寧とも豊かとも違う 私の考えるいい暮らし

暮らしは、頑張って整えるものではなく自分が心地よく戻れる場所にしておくこと



いい暮らしの基準は 人それぞれでいい

「丁寧な暮らし」「豊かな暮らし」という言葉に
憧れを感じたことはありませんか？

きれいに整った家、センスのいいインテリア、毎日手作りの食事
——そんなイメージに、どこか惹かれる気持ちはある。

でも、私が本当に大切にしたいのは

誰かに見せるための暮らしではありません。

家族と毎日を過ごす中で、自分が気持ちよくいられること。

それだけでいいと思っています。

いい暮らしの基準は、人それぞれでいい。

だからこそ、私なりの暮らしの定義を

少しずつ言葉にしてみました。



2
定義 01

定義01 | 無駄なものは増やさない

上質なものを選ぶことが正解というわけではない。流行や話題に振り回されない。
ものを選ぶ前に、自分の暮らしに本当に必要かを考える。たくさん持つより、自分の基準で残す。
買うことに慣れてしまうと、残す理由を考えなくなる。
だからこそ、手に入れる前に一度立ち止まる習慣が、暮らしを整えてくれる。

手帖メモ：買うことより残す理由を持つ



定義 02 | 好きなものが暮らしを整える

お気に入りに入れられて暮らす

ものを買った先の未来を想像する。

それが、本当に必要なものか、気持ち上がるものか、永く愛用できるものか。

毎日目に入るもの、手に取るものこそ、妥協しない。

お気に入りは、暮らしの景色を少しずつ整えてくれる。

使うたびに「好きだな」と思えるものだけを、そっと手元に残していく。

それが私にとっての、いい暮らしの基準のひとつ。

手帖メモ：使うたびに気分が上がるものを選ぶ

4

定義03

定義03 | 置かない選択が 心地よさをつくる

何も置かない場所は、一見無駄に見える。
でも、あえての余白がインテリアを際立たせる。
余白があることで、掃除もしやすく
散らかりにも気づきやすい。
余白は、何もないではなく
暮らしを整えるためのスペース。
置かない選択こそが
空間に静けさと心地よさをもたらしてくれる。



手帖メモ | 無駄だと思える余白を残す

5

定義04

定義 04 | 1日の終わりはキッチンリセット

1日の終わりに掃除で締めくくることが、翌日の自分への事前準備。
夜のキッチンを整えておくと、朝を気持ちよく始められる。見えない場所こそ整えておくと、開けるたびに小さな充実感がある。
片付けは義務ではなく、明日の自分を少しラクにする仕組みだと思っている。

手帖メモ：今日の終わりを整えると、明日の始まりが変わる。



6

定義05

定義05 | 鏡はきれいにしておく

日々目にするものは、できるだけきれいにしておきたい。
鏡がきれいだと、朝の身支度も気分よく進む。
大きな掃除より、日々の小さな気持ちよさを大切にする。
自分が自分を整える時間にも、暮らしの状態は影響する。
鏡に映る景色が整っているだけで
朝の自分への向き合い方が変わる。

手帖メモ：目に入る景色が、自分の気分をつくる。



7

共通すること

5つに共通すること 頑張る暮らしではなく戻れる暮らし

私にとっていい暮らしは、完璧に整った家のことではない。
無理をして丁寧に暮らすことでも
たくさん持って豊かに見せることでもない。
自分の基準で選び、余白を残し、毎日を気持ちよく戻せること。
暮らしは、誰かに褒められるためではなく
自分と家族が心地よく過ごすためにある。



ものづくりも 暮らしの延長にある

yeklaのものづくりは

この暮らしの定義と同じ考え方から始まっています。

ただ便利だけのものではなく

使うたびに気持ち上がるもの。

生活感を隠すのではなく、暮らしに自然になじむもの。

忙しい毎日の中でも、少し自分らしさを取り戻せるもの。

私たちが届けたいのは、使えるではなく

使いたいと思えるものです。

暮らしの延長にある、そんなものづくりを続けていきたいと思っています。

まとめ

いい暮らしは誰かの正解ではなく自分の基準でつくっていく

暮らしは、どれだけ持つかではなく、何を残すか。

丁寧さや豊かさを目指すより、自分が心地いいと思える基準を持つこと。

その基準が家も、もの選びも、毎日の気分も整えてくれる。

yelka公式LINEで手帖の続きと限定情報をお届けします

ゆきこ手帖では、収納・もの選び・暮らしの整え方を少しずつまとめています



◀ 公式LINEはこちらから